



ひよこ組

【3月の保育のねらい】

- ・指差しや簡単な言葉を使って、保育者とのやりとりを楽しむ。
- ・つまんだり、引っ張ったり、握ったりしながら、指先を使って遊ぶことを楽しむ。

＜自分で登れたよ！＞

入園当初は、まだハイハイや寝返りをしていただけの子も、歩いたり、跳んだり、登ったり、降りたり、色々な事ができるようになりました。この一年のこどもたちの成長には、特に目を見張るものがあります。“こんなことできたよ！”“自分でやってみたいな～”と興味を持って、嬉しそうに笑う姿に、毎日感動がいっぱいです！

最近では箱登りをしています。少し高い所にも、ズンズンと登っていきます。“自分で登りたい”という思いを汲みながら、保育者はそっと手を添えて様子を見守ります。箱を登り切った後、「お～い！」と達成感に満ちた表情で手を振ってくれるこどもたちです。室内でも、思い切り身体を動かして、楽しんでいます。

この一年を振り返ると、「こんなに大きくなったんだなあ」と様々なこどもたちの姿が、昨日のことのように思い出されます。心身ともに大きく成長するこの一年間に、成長を側で見守り、こどもたちや保護者の方々と一緒に、喜びを共有し合う事ができたことを嬉しく思います。これからも、成長を共に喜び合っていけたらと思います。



りす組

【3月の保育のねらい】

- ・見立てつもりあそびや生活再現あそびを十分に楽しむ。
- ・遊びを通して、友だちや保育者と言葉のやりとりを楽しむ。

＜大好きなリズム運動♪＞

公園や園庭、テラスでは走り回り、室内ではトンネルや肋木などで身体を動かしてあそんでいるうちに、だんだんと身のこなしが上手になってきたこどもたちです。4月から保育者の歌に合わせて室内外でリズム運動も楽しむことができました。歌を聞いただけで、自然と身体が動いているこどもたちです。「チャンチャンチャンやってー（うさぎ）」「もしもしカメよー」とこどもたちからリクエストされることも多いです。歌によって動きは決まっていますが、保育者の動きを真似してやっています。ウサギやアヒルなどの動物や、ドングリ、汽車…様々なものになりきって動くことで、こどもたちの中でリズム運動が楽しいものになっています。まだまだリズム運動の真似っこではありますが、まずは「リズムってたのしいね」という気持ちを大切に、楽しみながら体を沢山動かしていきたいです。



ちゅうりっぷ組

【3月の保育のねらい】

- ・思ったこと、感じたことを話したり、相手の話を聞こうとする。
- ・進級することを大人や友だちと一緒に喜び、期待を持つ。

＜もうすぐさくら組のお兄さん、お姉さん＞

帰りの支度（荷物を持ってきて、リュックの中にノートと汚れ物袋をしまう）は、こどもたちが自分でできています。初めの頃は、おやつを食べた後、そのまま遊んでしまう子もいましたが、最近は大人の声かけがなくても自ら進んで行うようになりました。先日、朝の集まりで「もうすぐさくら組のお兄さん、お姉さんになるよね。帰りの支度が上手にできているから、朝の支度も自分でできるんじゃないかな？」と話しました。すると、「うん、できるよ！」と自信を持って話す子や「え～」と表情が曇る子も…。こどもたちと相談しながら、自分でできそうな朝の支度の内容を決めました。

○ノートと口拭きタオルをカゴに入れる。

○リュック、上着をロッカーにかける。

まだまだ甘えて、お父さん、お母さんにやってもらおうとする姿があるかと思いますが、「自分でやる」と決めたので、大人がやってしまうのではなく、こども達が自分で支度ができるようにサポートしていただけたらと思います。「じぶんでできた！」「もうすぐさくらぐみだもん！！」と進級することへの自信につながればいいと思います。



さくら組

【3月の保育のねらい】

- ・ファンタジーの世界、絵本の世界を楽しむ。
- ・少人数、気の合う友達の中で、自分の思いを伝えあう。

＜OOだったら、どうしよう…＞

少し前までのさくら組は、「OOが良い」「OOはない」としか話が出てきませんでした。ところが2月3日の節分の頃からは、今まで自分が経験したこと、聞いた話から「OOだったら、どうしよう…」と違う考え方も出てきました。また哲学堂公園の探検に行ったときには、「カップはいない」「迷子には絶対にならない」と言い切っていたのが、「初めての道だから、迷子になっちゃうかもよ」「この木が曲がっているのは、本当に幽霊の仕業だったりして」とファンタジーの世界に入っている姿も見られました。現実とは違うファンタジーの世界だからこそ楽しめることもあると思います。いろいろな本を読んだり、いっぱいこどもたちと話をしながら、さくら組ならではの世界観を楽しみたいと思います。



うさぎ組

【3月の保育のねらい】

- ・着脱や排泄など一人でできることが増えた喜びを自信に感じ進級に向けて期待感を高める。
- ・経験したことや興味のあることを遊びの中で表現しイメージを共有し楽しむ。

＜朝の集まり＞

秋ぐらいからみんなで集まりを始めました。集まりは、名前を呼んでお休みの友達を知ったり、一人ひとり何をして遊びたいかを聴く時間になっています。最初は返事をするのが恥ずかしく言えない子もいましたが、みんなが参加できるように、「今日は名字で呼ぶね」「今日は男の子から呼ぶね。」など呼び方をアレンジすると楽しくなったのか、みんな元気に返事をしてくれるようになりました。時々楽しすぎて、「へい」「どてっ」などと返事をしてしまうこともあります…（笑）また、少しずつですが、いない友達も意識するようになり、名前を呼ぶ前に「OOちゃんいないよ」「おやすみなのかな？」などとこどもたちの方から言うようになりました。そして、「すべり台がしたい」「鬼ごっこで走りたい」「ドングリを探したい」「薬師公園にいきたい」「平和の森公園」など自分の思いを話したりしていますが、最近では「みかん鬼ごっこしたい」とか「鬼かくれんぼしたい」などと自分で考えたオリジナルの遊びを話すようになってきました。「みかんだぞ～と追いかけるの」「タッチしたらみかんになる」などとルールも自分なりに考えているので、それを聞いてみんなで遊んでいます。

不思議なもので自分の話を聞いてくれたと感じると他の友達の話も聞くようになってきたこどもたち。朝の集まりは楽しい場になってきています。



もみじ組

【3月の保育のねらい】

- ・小学校への期待を持って生活する。
- ・友だちと楽しく遊ぶ。

【今月のドキドキ】

- ・卒園式で立派な姿を見せる。

＜もうすぐりっぱな1ねんせい＞

先日、新しい令和小学校をみんなで見に行きました。白い校舎や広い校庭。目に映る全てが大きすぎて、こどもたちはただ「すごいね」と言うばかり。令和小に行く子も違う子も、じっと見ていました。小学校へ行ったら何がしたい？と聞くと、「勉強」という声。勉強をするぐらい自分は大きくなったんだという自信と、こどもたちが先を見つめているのを感じました。

今年度も、新型コロナウイルスの影響で例年通りいかない日々が続きました。「夕涼み会やお泊り会はやらないの？」「高尾山に登りたかった」。こどもたちは、先輩もみじさんや、お兄ちゃんお姉ちゃんから聞いていたことが出来ないことを、残念に思っていました。「じゃあ何する？どうやる？」と大人とこどもと一緒に考え、出来る範囲のことをやってきました。形は違っても、やること全部、こどもたちは楽しんでくれました。コロナ禍だろうが何だろうが、ピカピカの笑顔を見せてくれました。保育園の保護者の皆さんと職員みんなに見守られ、成長を見せてくれました。そして、もうじき卒園です。

保育園生活も残り1か月。小学校への期待を胸に、元気で楽しいもみじ組らしく、最後の最後まで友だちと笑い合い、時にはけんかして過ごすことでしょ。私たちも元気に、笑ってこどもたちを送り出したいと思います。こどもたちの小学校生活が、きらきらと輝く日々になることを願っています。

